

# 特集

〈事例〉

## ハローワークと連携した説明会で 会員増強を実現

公益社団法人  
伊勢崎市シルバー人材センター

(群馬県)

伊勢崎市SCでは、会員増強に向けて「5本柱」の施策を展開している。特に令和6年度から開始したハローワークとの連携による「おしごと説明会」は、就業意欲の高い層への直接的なアプローチを可能にし、入会者数を加速度的に増加させる大きな成果を上げた。これにチラシ配布やSNS活用、サークル活動による退会抑制等を組み合わせ、地道かつ多角的な活動で持続的な会員増強を目指している。

### これまでに取り組んできた 会員数増加への多様な活動

伊勢崎市SCでは、令和に入ってから、会員数の減少に歯止めがかからない状況が続いていた。とりわけ大きな影響を及ぼしたのが、新型コロナウイルス感染症の流行である。不要不急の外出自粛や対人接触の回避といったライフスタイルの変化に加え、景気低迷のあおりを受けてセンターが受注する事業量も減少するなど、その影響は深刻だった。

もっとも、会員数の減少への対応を怠ってきたわけではない。センターでの仕事内容をイラストで分かりやすく紹介したチラシを制

作し、センターや市内の公共施設

に備え付けるとともに、年2回、市の広報紙「広報いせさき」へ折り込むことで、市内全戸に配布した。その結果、「チラシを見て来所した」という入会希望者も一定数は確保されていたという。

### 入会説明会の工夫と 情報発信による関係づくり

シルバー人材センターに関心を持ってくれた人を対象とした入会説明会「おしごと説明会」も、センター本所で継続的に実施してきた。「できれば女性の職員に相談したい」というリクエストに応えて、女性限定の説明会を設けるなど、参加しやすい環境整備にも注力し

ている。

併せて、日々の暮らしや仕事に役立つ情報を紹介する「シルバーミニだより」を毎月1回、女性向けコラムを掲載した「シルバー女性新聞」を季刊で発行し、配分金の支払い明細に同封するなど、会員との情報共有を重視することで、センターに対する信頼感や安心感の醸成を図ってきた。

### 地域ボランティアと 交流促進による退会抑制

さらには、地域に根差したボランティア活動も精力的に続けている。毎年11月には「シルバーの日」の活動として、市内8か所の公共施設や公民館で清掃活動を実施し

センターでの仕事をイラストで紹介したチラシ。年2回、市の広報紙に折り込み、市内全戸に配布している

地域社会に貢献したい、健康で働く意欲のある60歳以上の方 回覧

## シルバー人材センター 会員募集中

シルバー人材センターは、地域社会に密着した臨時的・短期的な仕事を会員の皆さんに提供しています。  
あなたの能力や経験を活かして545人の元気な会員と一緒に働きませんか。

**● 屋内外の一般作業**  
除草・草刈り  
農作業 清掃  
バリ取り  
霜防めなど

**● 主な仕事**

● 折衝・外交分野  
ポストインなど

● 技能分野  
機手入れ 大工仕事  
換気扇・網戸運替  
ペンキ塗りなど

● その他  
(シルバーサポート隊)  
60分以内で  
終了できる作業  
電球交換など

**● 事務分野**  
毛筆筆耕・宛名書き  
受付事務など

**● 管理分野**  
施設管理  
駐車(駐輪)場管理など

①伊勢崎市内に居住する、60歳以上の健康で働く意欲のある方  
②シルバー人材センターの趣旨に賛同される方  
③入会説明を受け、申込書を提出できる方  
※年会費2,400円・印鑑・振込口座番号(群馬銀行)をお持ちください。

公益社団法人 伊勢崎市シルバー人材センター  
〒372-0014 伊勢崎市昭和町1720番地1(耕の郷敷地内)  
**Tel.0270-24-7722** 伊勢崎・埴地区担当  
Fax. 0270-21-5135 E-mail isesaki@sjc.ne.jp



赤塚地区担当 市役所赤塚支所敷地内 0270-40-0022(兼Fax)  
東地区担当 みやまセンター敷地内 090-2164-4211

ている。清掃に参加した会員が通行人とあいさつを交わすなど、センターの存在を市民に再認識してもらう貴重な機会となっている。

一方、新入会員の獲得だけでなく、既存会員の退会抑制も重要な課題となっている。毎月2回の「書道教室」や、年5〜6回の「ゴルフコンペ」を通じて会員相互の交流の機会を創出してきた。就業機会の提供のみならず、人とのつな

がりそのものを価値として感じられる環境づくりを推進している。

### 令和5年度から 取り組みを強化

これらの地道な活動をさらに強化したのが、令和5年度からである。屋内作業を希望する会員の要望にこたえて、お守り製作やシール貼りといった業務を新たに受注した。特にお守り製作については、

「書道教室」「ゴルフコンペ」といったサークル活動により、会員同士の交流を促進し、退会抑制につなげている



先行して実績のあった県内の桐生市SCから業者を紹介してもらい、受注に至った経緯がある。

また、広報活動も多角化させた。市内ショッピングモールで行うのぼり旗の掲出やチラシ配布に加え、スーパーマーケット等の店頭でのチラシ設置も開始した。令和8年1月現在、設置協力店舗は28か所に上り、会員獲得だけでなく、就業先の開拓という副次的な効果に

つながっている。

### ハローワークとの連携が 大きな成果をもたらす

同じく令和6年度から新たに開始し、最も大きな成果を上げているのが、ハローワーク伊勢崎と連携した「おしごと説明会」である。従来はセンター内で完結していた説明会をセンターの枠を超え、求職者が集まる公的な場へと広げたことで、シルバー人材センターの存在を知らない、あるいは関心のない層にもアプローチできるようになった。

阿佐美仁常務理事兼事務局長は、「就業支援という共通の理念を持つハローワークとは良好な関係を築いており、説明会の会場も提供してもらっています。これまでセンターで実施していた説明会には就業への意思や意欲が固まっていない人も少なくなかったが、ハローワークを訪れる人は就業意欲が明確で、ハローワークで『おしご

ハローワークと連携した「おしごと説明会」。30人定員で3か月ごとに開催される。阿佐美仁常務理事兼事務局長自ら壇上に立ち、熱心に説明を行う



と説明会』を開催するようになってから、入会者数が加速度的に増えました」と手応えを語る。

会場の制約から定員は30人とし、センター職員による説明のほか、チラシや群馬県SCC連合会制作のDVDを活用することで、センターでの仕事内容を視覚的に伝えている。

開催時間は質疑応答を含めて1時間で、終了後には参加者全員へ

就業条件を把握するためのアンケート用紙。希望内容を詳細に尋ね、入会後の適切な就業マッチングに役立てる

**おしごと調査アンケート**

記入日：令和 8年 1月 27日

(フリガナ) 氏名		生年月日	昭和 年 月 日 (満 歳)
住所	群馬県伊勢崎市 ※町名までで結構です。 (自宅)		
電話番号			(携帯)

1. 1週間あたりの希望する就業日数に○を付けてください。
  - ア. 週5日程度    イ. 週3~4日程度    ウ. 週1~2日程度
2. 1日あたりの希望する就業時間に○を付けてください。
  - ア. 6時間程度    イ. 4~5時間程度    ウ. 3~2時間程度
3. 「希望する仕事」または、「出来る仕事」に○を付けてください。(複数可)
 

ア. 清掃作業	イ. スーパー業務	ウ. 除草作業 (草刈り)
エ. 植木作業	オ. 調理補助	カ. 縫製 (内職)
キ. 学童・保育補助	ク. 農作業	ケ. 工場軽作業
コ. 宿直	サ. 屋外作業	シ. 屋内作業
ク. 自転車整理	セ. 駐車場案内	ソ. その他 ( )
4. 雇用保険受給中、または受給予定の方はご回答ください。
  - ア. 雇用保険受給中    年    月まで
  - イ. 雇用保険受給予定    年    月~    年    月まで
5. 移動手段に○を付けてください。
  - ア. 自動車    イ. 原付バイク    ウ. 自転車    エ. その他 ( )

アンケートにご協力頂き、ありがとうございました。  
お帰りの際に出口にいる職員へお渡しください。

希望する就業日数、就業時間、仕事内容、移動手段などの就業条件を尋ねるアンケートを配布。回収した回答は、入会後の就業マッチング精度の向上に生かしている。

**7回開催し46人が新たに入会**

ハローワークでの説明会は令和6年4月に初開催し、以降3か月ごとに定期的に行っている。令和7年10月までの実績は次の通り。

- 参加者数18人 (男性16人・女性2人) 【第1回 令和6年4月】
- 参加者数5人 (男性1人・女性4人) 【第2回 令和6年7月】
- 参加者数17人 (男性10人・女性7人) 【第3回 令和6年10月】
- 参加者数4人 (男性14人・女性18人) 【第4回 令和7年1月】
- 参加者数21人 (男性11人・女性10人) 【第5回 令和7年4月】
- 参加者数4人 (男性21人・女性9人) 【第6回 令和7年7月】
- 参加者数27人 (男性18人・女性9人) 【第7回 令和7年10月】
- 参加者数7人 (男性15人・女性12人) 【第8回 令和8年1月】

入会者数8人

【第4回 令和7年1月】

● 参加者数21人 (男性11人・女性10人)

● 入会者数4人

【第5回 令和7年4月】

● 参加者数30人 (男性21人・女性9人)

● 入会者数11人

【第6回 令和7年7月】

● 参加者数27人 (男性18人・女性9人)

● 入会者数7人

【第7回 令和7年10月】

● 参加者数27人 (男性15人・女性12人)

● 入会者数7人

なお、第7回までの累計参加者は172人に達し、そのうち46人が就業を開始または予定しており、着実に成果が表れている。

**公式SNSを開設し 会員同士のつながりを強化**

説明会の参加者や入会者からは、

令和6年10月に開設した公式Instagram。SNSを活用し、情報発信を強化している



「写真や映像で仕事内容がイメージしやすく、とても分かりやすかった」「広告やチラシを見て安心して参加できそうだと思った」といった肯定的な意見が聞かれた。また、「書道教室やゴルフコンペなど独自のサークル活動があると聞いて楽しみが増えた」と就業以外の活動に期待を寄せる声も多い。阿佐美事務局長も「これまでの取り

組みが無駄ではなかったことが分かり、苦勞が報われるような気持ちです」と話す。

サークル活動を楽しむにするといったコミュニケーション活動への関心の高まりを受け、会員同士のつながりをさらに強化する施策として、令和6年10月にセンターの公式Instagramを開設した。

阿佐美事務局長は、「会員のボリュームゾーンに当たる70代以上にはなじみが薄いツールかもしれませんが、今後は60代の比較的若いシニア層へのアプローチを強化していかなければなりません。そのためにも、Instagramの

ようなコミュニケーションツールは積極的に活用していくべきだと考えていますし、これからも継続していきたいと思います」と、先を見据えた方針を示した。

**地道な5本柱の活動で持続的な会員増を目指す**

こうした活動を重ねた結果、会

員数は、令和5年度には400人を下回ったものの、令和6年度に466人と大幅に回復し、令和8年1月時点では500人の大台に乗せた。

同センターでは、今後の会員増強に向けた展望として、次の5本柱を掲げている。

①チラシ配布などによる広報活動  
②「おしごと説明会」による求職者へのアプローチ

③写真や映像を活用した仕事内容の見える化  
④サークル活動やSNSによる会員の交流促進

⑤センターとして事業量の継続的な確保  
「会員を一気に増やすような特効薬はありません」と断言する阿佐美事務局長は、最後に次のように結んだ。

「定年延長による入会時期の後退や、ライフスタイルの多様化によつて働くことを選ばない層が増えているといった構造的な課題が

ある中で、これまで培ってきた地道な活動を丁寧に継続することが大切と考えています。この5本柱を着実に強化しつつ、さらなる会員増強に努めたいと考えています」

(川上和義)

事業運営状況 (令和2年度～令和6年度)

年度	会員数			粗入会率 %	就業実人員 (延人員) (人)	就業率 %	受注件数 件	契約金額 千円	公民比 %
	男性	女性	全体						
令和2	372	104	476	0.7	424 (55,400)	89.1	3,188	325,173	12.5/87.5
3	327	97	424	0.6	378 (52,689)	89.2	2,931	314,832	13.4/86.6
4	308	91	399	0.6	367 (49,989)	92.0	2,769	309,851	13.4/86.6
5	282	101	383	0.6	357 (48,187)	93.2	2,623	290,244	14.8/85.2
6	323	143	466	0.7	417 (56,356)	89.5	2,610	328,871	13.3/86.7

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値  
 ※就業実人員は請負・委任と労働者派遣事業が対象 ※就業延人員は労働者派遣事業の教育訓練受講を含む  
 ※令和5年度以降は性別未回答の会員がいるため、会員数の男女計と全体は必ずしも一致しない